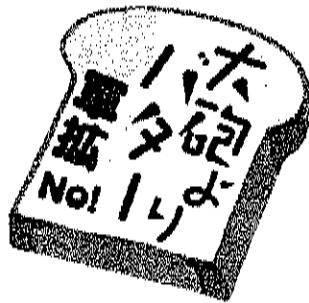




長谷川清美さん



子どもの育ち不安異次元

大(ばくだい)な予算をかける。これでは、異次元の子どもの育ち不安です。軍事より保育士を一人でも増やすためにお金を使ってほしい」。保育士として30年以上働く長谷川清美さん(57)=広島市=は、そう訴えます。

岸田首相は「異次元の子育て支援」とうたうのと同時に、軍事費に莫

大(ばくだい)な予算をかける。これでは、異次元の子どもの育ち不安です。軍事より保育士を一人でも増やすためにお金を使ってほしい」。保育士として30年以上働く長谷川清美さん(57)=広島市=は、そう訴えます。

岸田首相は「異次元の子育て支援」とうたうのと同時に、軍事費に莫

「保育部門の世話をします。『どきに生まれてもいい』で育つても豊かな保育環境を」と制度改善や仲間のサポートを取り組みます。保育士の待遇を改善するだけでなく、保育の専門性を高める研修や質の向上も大事だと強調します。

他国と比べ日本の保育士配員基準は低いと指摘します。

「新生児の突然死を防ぐために、『寝ているときも1分おきに顔色などを確認すること』と現場に徹底し対応訓練も行つている。0歳児3人、1歳児6人それぞれに対し保育

士一人といういまの配員基準では、安心安全で豊かな保育提供は難しい」

岸田自公政権が進める大軍拡は、子どもの健やかな育ちを守る保育と「正反対だ」と憤ります。ロシアによるウクライナへの戦争で、子どもにさえ容赦なく砲弾が降り注ぐところ、「コースを耳にするたび、戦争への道を強める軍拡の危険性を強く感じます。

「子どもは『模倣の人』。おとなが笑顔でいないと子どもも笑顔にならない。おとなが不安な日々を送っていては、子どものいい育ちにつながらない。『戦争のない日本に生まれてよかつた』と想える社会にしなければいけない」